

鳴海の周平の全国ぶらり旅

横須賀編



人口43万人を有する三浦半島随一の都市・横須賀。東京へは、横浜を経て陸路55kmの首都圏にあります。東京湾の入口に位置する横須賀港は、首都圏への海のゲートウェイとして注目され

ています。多数の入江を形成する天然の良港であり、昭和40年（1965年）には開港100周年を迎えた歴史ある港でもあります。また、米軍基地のあるまちとしても知られています。

そんな、港のあるすがすがしい風景にふれ、基地のある国際色豊かな街並みを歩いてみたいと思ひ、今回のぶらり旅は横須賀に決定しました。

京浜急行横須賀中央駅で降りると、ビジネスマンと買い物客で賑わう横須賀のメインストリート・横須賀中央大通りに出ます。通りに設けた街路樹とイルミネーションは、道行く人々にやすらぎを与えてくれます。横須賀を代表する横須賀みなとまつり、みこしパレードなどここで催され、市民だけでなく観光客も訪れ、いつも以上の賑わいに沸き返ると聞きました。日



本とアメリカの異国文化が見事に融合した街を散策していると、おしゃれで生き生きとしたお年寄りを多く見かけ、これも横須賀に好印象を抱いたことの一つでした。



▲三笠公園内にある「記念艦三笠」
◀軍艦・三笠から遠くは猿島

した公園で、心地よい音楽に合わせて噴水が舞い、光に反射してモニュメントが輝き、爽快感に包まれています。至る所にせらぎを配した公園は、ビル街からもほど近く、都会のオアシスとして親しまれているようです。

園内には、日本海海戦で偉功をたてた日本海軍を代表する軍艦・三笠が「記念艦三笠」として保存されています。三笠は、明治37年（1904年）2月に始まった日露戦争で、東郷大将



横須賀中央駅から海側に向かい15分ほど歩くと、「日本の都市公園100選」に指定され横須賀を代表する三笠公園へ到着。ここは、水と光と音をテーマに



▲軍艦・三笠内の風呂

率いる連合艦隊の旗艦として奮戦を繰り返し、同年8月の黄海海戦には露国東洋艦隊に大打撃を与えました。翌年5月の日本海海戦では遂に、遠来のバルチック艦隊を全滅させるに至ったのです。

船内は改造を施し、展示場として公開されています。日露両国海軍艦艇の各種記念品や、東郷司令長官以下参戦将士の遺品や手記などのほか、日露戦争に関する数々の資料が展示されており、海戦の激しさを伺い知ることが出来ます。これは一度見学して歴史にふれてみてください。

基地のまちを象徴する「どぶ板通り」は、米海軍横須賀基地の正門近くにあります。アメリカの香りが漂う雑貨や衣料品などを扱う店が軒を連ねる通りを歩いていて、「スカジャン」発祥



軍艦・三笠内の会議室にて

の店を見つけました。カラフルなスカジャンが所狭しとディスプレイされた、ジュピターという店です。現在二代目のオーナーである我妻健男さんは、父君である正隆氏が昭和23年（1948年）に開業された当時のことなどを、夫人とともに快く話してくださいました。そのころ占領軍と呼ばれていた米兵に、父君がみやげ品として製作販売した「日本調のデザインを刺繍したジャンパー」こそが「スカ



▲米軍基地入口ゲート

ジャン」の始まりだそうです。昭和42年（1967年）〜1972年（1967年）のベトナム戦争のころ、図柄が大幅に増え、特に竜の図柄は東洋の神秘として人気が高かったとのことです。ここ数十年、日本の若者の間でまたブームとなり、当時人気であった図柄の型紙探しや製作に追われているご様子

でした。そんな中で貴重な時間をとってくれた我妻夫妻の明るい笑顔は、私が乙部町に戻ってからも時折思い出される温かい

どぶ板通り商店街
スカジャン発祥の店「ジュピター」▶



ものでした。お体にお気をつけて、これからも横須賀の土地に根差したファッションの発信を続けていってほしいと、心からそう願っています。

◆問合せ先（スカジャン）◆

ジュピター 代表 我妻健男
☎0468-23-8833